

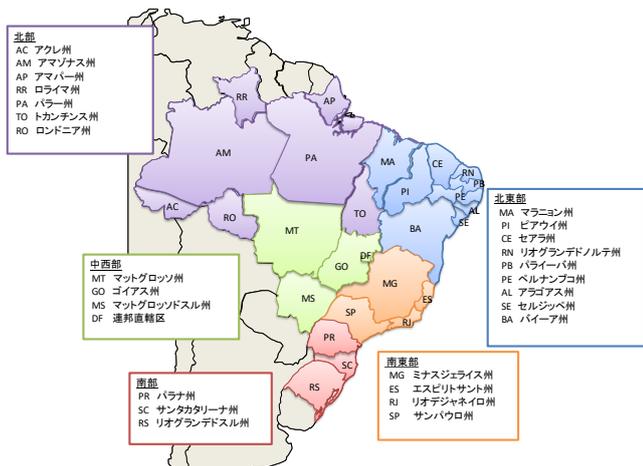
南米[ブラジル]



1 農・畜産業の概況

ブラジル政府の農業センサス(2017年)によると、農業経営体507万戸の所有面積は3億5129万ヘクタール(国土面積全体の41%)あり、このうち農耕地が6352万ヘクタール(農用地面積の18%)、牧草地が1億5950万ヘクタール(同45%)および森林が1億1523万ヘクタール(同33%)がとなった(図1、表1)。

図1 ブラジルの行政区分



資料:ブラジル地理統計院(IBGE)のデータを基に機構作成

表1 農場数と農場面積の推移

(単位:千戸、千ha)

	1975	1980	1985	1996	2006	2017
農場数	4,993	5,160	5,802	4,860	5,176	5,073
農場面積	323,896	364,854	374,925	353,611	333,680	351,290

資料:ブラジル地理統計院(IBGE)

ブラジル国家食糧供給公社(CONAB)によると、2021/22年度(10月~翌9月)には7457万ヘクタールが穀物生産に向けられ、その生産量は2億7264万トン(前年度比6.2%増)となった。主要生産品目はトウモロコシおよび大豆で、いずれも世界有数の生産量である。

畜産分野では、牛肉、鶏肉、豚肉いずれの生産量、輸出货量とも世界で上位を占めている。21年の牛肉生産量は米国に次ぐ世界第2位、鶏肉生産量は米国、中国に次ぐ第3位、豚肉生産量は中国、EU(英国を除く27カ国)、米国に次ぐ第4位となった。また、輸出货量は牛肉、鶏肉が世界第1位、豚肉がEU、米国、カナダに次ぐ第4位となった。21年の農産物(農畜産物、林産物および水産物)輸出額は、1205億米ドル(前年比19.7%増)となった。また、同年の農産物輸入額を差し引いた農産物の貿易黒字は1050億米ドルとなり、農業部門が同国の貿易収支に重要な役割を果たしている。

2 畜産の動向

(1) 肉牛・牛肉産業

ブラジルの肉牛生産は、広大な牧草地を利用した放牧が主体であり、主に耐暑性に優れたゼブー系ネローレ種が飼養されている。近年は、穀物生産が増加し、放牧面積が減少傾向にあることから、仕上げ期に穀物を給与するフィードロットによる飼養形態も拡大している。

ブラジルでは、長年、口蹄疫対策に取り組んできた結果、2007年に、南部のサンタカタリーナ州が、国際獣疫事務局(WOAH)より同国初のワクチン非接種清浄地域のステータス認定を取得し、さらに21年5月にはワクチン非接種清浄地域としてその他4州の全域と2州の一部が追加認定(注)された。なお、これ以外の地域は、ワクチン接種清浄地域となっている。ブラジル農牧食糧供給省(MAPA)は、17年10月に策定

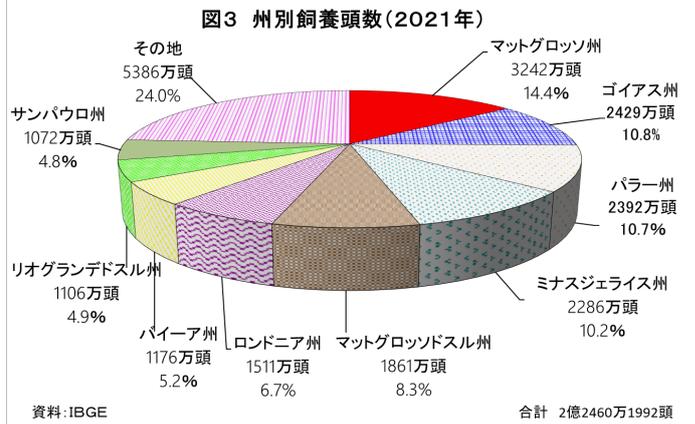
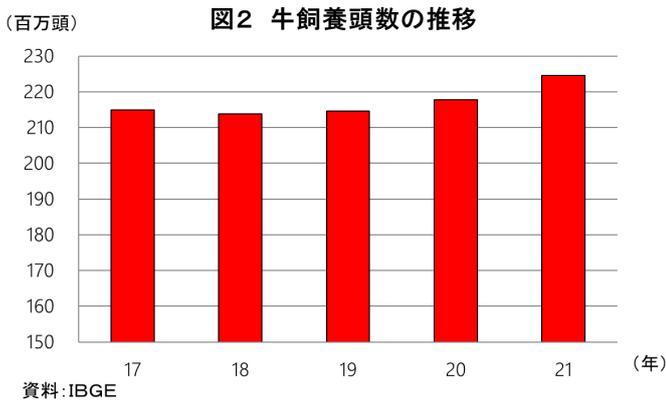
した口蹄疫の撲滅及び予防に関する国家戦略（PEPNEFA）において、26年までにブラジル全土で口蹄疫ワクチン非接種清浄地域の認定を目指すとしている。

また、BSEについては、23年5月時点でWOAHより「無視できるリスク」の国として認定されている。なお、ブラジルでは12年、14年および19年に高齢牛で非定型BSEが確認された。

（注）WOAHは2021年5月、ブラジル南部パラナ州、リオグランデドスル州、北部アクレ州、 Rondônia州全域および北部アマゾナス州と中西部マットグロッソ州の一部を口蹄疫ワクチン非接種清浄地域として認定した。

① 飼養動向

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2021年の牛飼養頭数は、2億2460万頭（前年比1.5%増）となった（図2）。州別に見ると、前年と同様に中西部のマットグロッソ州が最も多く、次いでゴイアス州（中西部）、パラ州（北部）、ミナスジェライス州（南東部）、マットグロッソドスル州（中西部）と続いた。従来は、大消費地のある南東部を中心に飼養されていたが、海外を中心とした需要の高まりを受け、地価が安く広大な中西部や北部などでの飼養が拡大している（図3）。



② 牛肉の需給動向

ア 生産

米国農務省（USDA）によると、2021年のブラジルの牛と畜頭数は4010万頭（前年比1.8%減）、牛肉生産量は9750万トン（同2.3%減、枝肉重量ベース）となった（図4）。中国、香港など海外からの堅調な牛肉需要を背景に18～19年に繁殖雌牛の淘汰が増加した結果、21年はと畜対象となる牛群が縮小し、と畜頭数および牛肉生産量が前年を下回った。

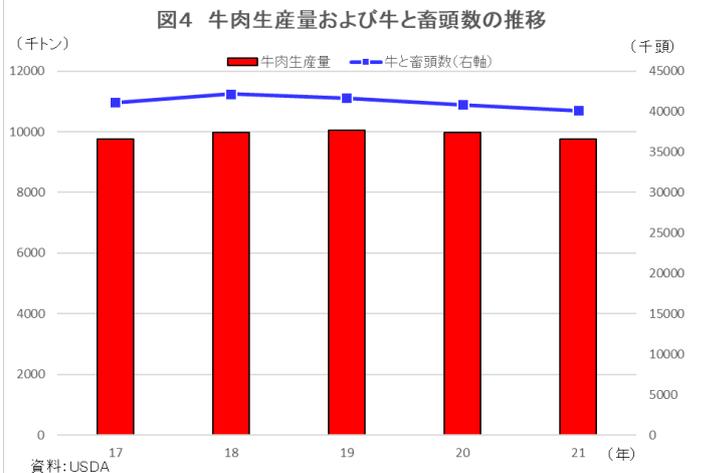


写真1 ゴイアス州の放牧風景

イ 輸出

ブラジル開発商エサービス省貿易局（SECEX）によると、2021年の牛肉輸出量（製品重量ベース）は156万198トン（前年比9.5%減）と7年ぶりに前年を下回った（表2）。

これは、同年9月4日にブラジルで非定型BSEの発生が確認され、中国などがブラジルからの牛肉輸入制限を講じたためである。一方、輸出額は、旺盛な牛肉需要から輸出単価が大幅に上昇したことで前年を上回った。

輸出先別に見ると、中国向けは12月15日に全面的に輸出が再開されるまでの約3カ月間輸出規制が続いたことから、72万3170トン（同16.8%減）と前年を大幅に下回った。一方、20年3月に輸出が再開された米国向けは、中国向け輸出の一時停止の影響もあり8万5800トン（同4.3倍）と急増し、中国、香港、チリに次ぐ4番目の輸出先となった。

近年のブラジルの牛肉輸出は、アジアなどからの旺盛な需要により増加している。特に中国向けは12年の非定型BSE確認以降停止していたが、15年6月の輸出再開以降、著しい伸びを見せた。さらに、19年後半からは、中国のアフリカ豚熱発生による代替需要もあって、中国向け輸出は大幅に増加した。また、20年には新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により中国の物流の停滞や外食を中心とした需要の落ち込みから輸出が一時的に減少したが、その後回復に転じ、年間では増加となった。

表2 輸出先別冷蔵・冷凍牛肉輸出

区分	2021年			前年比(増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量 (%)	輸出額 (%)	単価 (%)
中国	723,170	3,906,641	5,402	▲16.8	▲3.2	16.2
香港	132,823	586,893	4,419	▲36.2	▲27.7	13.4
チリ	110,198	563,182	5,111	22.5	50.4	22.8
米国	85,800	465,296	5,423	327.0	384.3	13.4
エジプト	65,096	270,628	4,157	▲44.8	▲31.5	24.0
アラブ首長国連邦	47,609	211,504	4,443	22.1	36.8	12.0
フィリピン	45,894	192,268	4,189	17.0	44.5	23.5
その他	349,608	1,770,993	5,066	2.4	22.6	19.7
合計	1,560,198	7,967,403	5,107	▲9.5	7.0	18.3

資料：SECEX

注1：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。

注2：輸出量は製品重量ベース。

注3：出典が異なるため、表3と数値は異なる。

ウ 消費

CONABによると、2021年の国内牛肉消費量は、592万1000トン（前年比1.0%増）と3年ぶりに前年をわずかに上回った（表3）。近年の牛肉消費は、牛肉価格の上昇やCOVID-19の流行により減少傾

向となったが、21年はCOVID-19の規制緩和などによりわずかに回復したとみられる。

21年の牛肉の年間1人当たり消費量は、29.3キログラム（同0.4%増）と前年をわずかに上回った。しかしながら、長期的に見ると減少傾向で推移しており、18年に35キログラム台であった消費量はその後減少し、20年には30キログラムを下回った。

表3 牛肉需給の推移

（単位：千トン、kg/人/年）

	2017	2018	2019	2020	2021
生産量	8,921	9,215	8,866	8,493	8328.5
輸入量	57	47	50	63	71
消費量	7,011	7,067	6,433	5,865	5,921
輸出量	1,967	2,194	2,483	2,691	2,478
1人当たり消費量	35.4	35.5	32.2	29.2	29.3

資料：CONAB

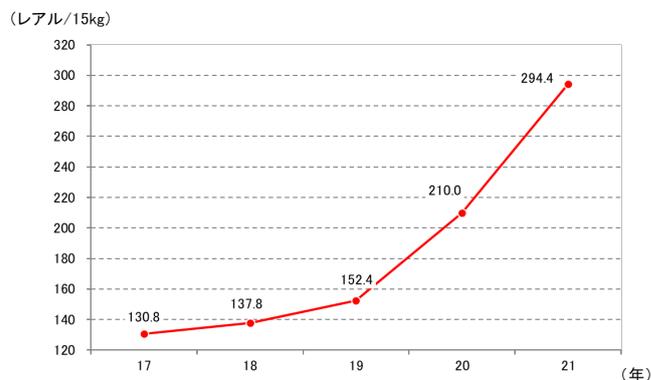
注1：枝肉重量ベース。

注2：出典が異なるため、表2と数値は異なる。

③ 牛肉の価格動向

ブラジルでは、牛の生産者販売価格は生体15キログラム（1アローバ）単位で示される。2021年の肥育牛平均価格（マツグロソドスル州カンボグランジ市場）は、1アローバ当たり294.4レアル（前年比40.2%高）と大幅に上昇した（図5）。特に19年終盤からは、海外からの堅調な牛肉需要を背景に価格の上昇が加速した。また、牛肉小売価格（ランプ）についても、1キログラム当たり43.3レアル（同26.2%高）と大幅に上昇した。

図5 肥育牛の生産者販売価格の推移



資料：CONAB

注：マツグロソドスル州

(2) 養鶏・鶏肉産業

ブラジルの養鶏・鶏肉生産は穀物生産が盛んな南部で全体の6割を占め、このほか中西部などで主に行われている。養鶏・鶏肉生産方式は、生産から流通まで一貫したインテグレーションも進展している。同国内の鶏肉生産は、BRF社、世界最大級の食肉企業であるJBS社および農協系最大のAURORA社など主要企業がけん引している。

また、飼料コストが他国に比べて低く価格優位性があることに加え、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が未発生（2023年5月まで）であり安定した供給が見込まれることから、世界最大の鶏肉輸出国となっている。

① ブロイラーの需給動向

ア 生産動向

CONABによると、2021年のブロイラー用ひなふ化羽数は69億1200万羽（前年比1.5%増）、鶏肉生産量は1523万3000トン（同3.7%増）といずれも3年連続で増加した（表4）。飼料穀物価格高により生産コストが大幅に上昇したが、国内外からの堅調な鶏肉需要により、同国の鶏肉生産量は増加したものとみられる。

表4 鶏肉需給の推移
（単位：百万羽、千トン、kg/人/年）

	2017	2018	2019	2020	2021
ひなふ化羽数	6,206	6,064	6,459	6,810	6,912
生産量	13,612	13,289	13,936	14,683	15,233
輸出量	4,232	4,018	4,175	4,125	4,468
1人当たり消費量	47.4	46.6	48.9	52.6	53.3

資料：CONAB

注：輸出量は生鮮鶏肉のほか、鶏肉調製品などを含む。

イ 輸出

SECEXによると、2021年の鶏肉輸出量は420万3600トン（前年比7.8%増、製品重量ベース）と前年をかなりの程度上回った（表5）。鶏肉輸出競合国でのHPAIの発生、COVID-19の流行により講じられた規制の緩和などに伴う海外からの堅調な鶏肉需要に加え、米ドルに対するリアル安の加

速から、ブラジル産鶏肉の価格競争力が高まった。

輸出先別に見ると、最大の輸出先である中国向けや、その他の重要な輸出先であるサウジアラビアや香港向けが減少した。一方、日本、アラブ首長国連邦、フィリピンなどそれ以外の輸出先の増加は、この落ち込み分を補完した。日本向けについては、輸出競合国であるタイでCOVID-19が流行し鶏肉生産が減少したため、9～12月を中心に輸出量が増加した。

表5 輸出先別鶏肉輸出（2021年）

区分	2021年			前年比(増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
中国	639,246	1,272,565	1,991	▲ 5.0	0.3	5.5
日本	438,341	831,340	1,897	9.2	26.4	15.8
アラブ首長国連邦	388,866	690,210	1,775	28.6	63.4	27.1
サウジアラビア	353,511	648,034	1,833	▲ 24.4	▲ 5.3	25.2
南アフリカ	296,067	207,391	700	13.3	75.9	55.3
フィリピン	168,001	152,497	908	180.9	329.6	52.9
韓国	113,749	204,153	1,795	▲ 10.7	3.9	16.3
その他	1,805,819	2,843,447	1,575	12.4	35.5	20.6
合計	4,203,600	6,849,637	1,629	7.8	25.0	15.9

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：輸出量は製品重量ベース。

注3：出典が異なるため、表4と数値は異なる。

ウ 消費

CONABによると、2021年の鶏肉の年間1人当たり消費量は、53.3キログラム（前年比1.4%増）となった（表4）。これは、21年5月以降、COVID-19の流行に伴う制限措置が緩和されたことや、国内経済の悪化に伴い消費者の購買力が低下する中、牛肉や豚肉より安価な鶏肉に消費者の需要がシフトしたためとみられる。

② ブロイラーの価格動向

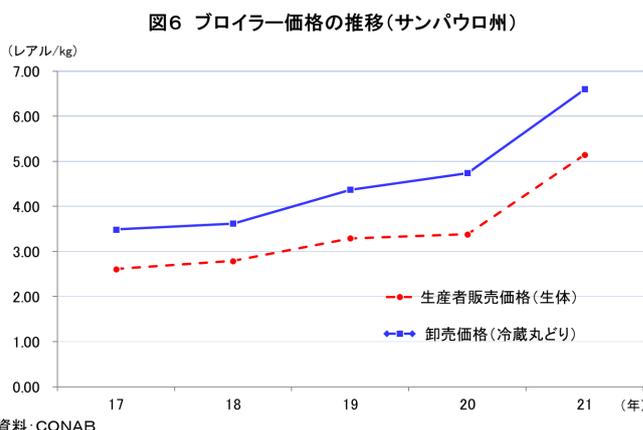
ア 生産者販売価格

CONABによると、2021年のブロイラーの生産者販売価格（サンパウロ州）は、1キログラム当たり5.15リアル（前年比5.2.4%高）と前年を大幅に上回った（図6）。これは、国内外の堅調な鶏肉需要を反映したものである。

また、ブロイラー生産コストの約7割を占めるトウモロコシや大豆かすなどの飼料費が20年後半から大幅に上昇し、年間を通じて高値で推移した。このことも、生産者販売価格が大幅に上昇した要因とみられる。

イ 卸売価格

2021年の冷蔵丸どりの卸売価格(サンパウロ州)は、鶏肉の引き合いが強まったことから1キログラム当たり6.6レアル(前年比39.2%高)と前年と比べ大幅に上昇し記録的な高値となった。しかしながら、鶏肉価格の高騰により消費者の需要が減退したため、同年終盤には価格が下落傾向に転じた。

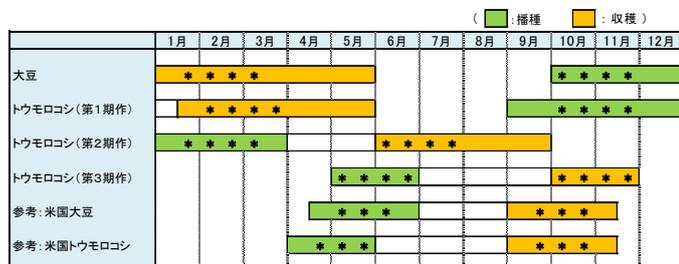


3 飼料穀物

ブラジルの2021/22年度(3月~翌2月)のトウモロコシの生産量は米国、中国に次いで世界第3位、20/21年度(10月~翌9月)の輸出量は米国、アルゼンチンに次いで第3位であった。

ブラジルのトウモロコシの作付けは、夏作(第1期作)と冬作(第2期作、第3期作)の年3回行われる(図7)。21/22年度(10月~翌9月)の第1期作はミナスジェライス州(南東部)、第2期作はマットグロッソ州(中西部)、第3期作はバイーア州(北東部)がそれぞれ最大の生産地となった。伝統的にトウモロコシ生産が盛んな南部3州(パラナ州、サンタカタリーナ州、リオグランデドスル州)での生産量は国内全体の19.0%を占めた。一方、近年、生産量を伸ばしている中西部(マットグロッソ州、マットグロッソドスル州、ゴイアス州、連邦直轄区)は同56.8%となり、前年度より1.1ポイント増加した。

図7 ブラジルの大豆・トウモロコシの生育カレンダー



資料: CONAB、米国農務省(USDA)に基づいて機構作成

注1: 主要生産州の播種および収穫期に基づいて作成。*印は、各月を前半と後半に分けて、最も盛んな時期を示している。

① 主要な政策

2021/22会計年度(7月~翌6月)は、MAPAが管轄する農業部門に対し、過去最大規模となった

前年度をかなりの程度上回る2512億レアル(前年度比6.3%増)の予算が措置された(表6)。

この予算は、穀物生産の拡大と環境保全を柱に、食糧の安定的確保や生産者の生産能力・競争力強化などを目的とした融資に向けられる。

表6 農業部門予算の推移

(単位: 億レアル)

農業年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21	2020/21
総予算額	1,884	1,911	2,227	2,363	2,512
営農・販売融資	1,503	1,511	1,693	1,794	1,778
投資融資	381	400	534	569	734

資料: MAPA

営農・販売融資については、1778億レアル(同0.9%減)の予算が措置された。営農融資は農畜産物の生産や加工に要する経費を対象としている。また、販売融資は連邦政府が定める農畜産物の最低価格を基礎として農畜産物を担保に行われる。

投資融資については、734億レアル(同29.0%増)が予算措置された。同融資は、ほとんどの場合、MAPAが管理し、政府系のブラジル銀行や国立社会経済開発銀行(BNDES)が融資を行う。同融資には、温室効果ガスの削減を図り持続的農業を拡大する低炭素排出型農業プログラム(ABC、予算額51億レアル)が含まれている。具体的には、有機農業プログラムへの適応、牧草地の回復、農業・畜産・森林を一体として推し進めるブラジル独自のインテグレーションシステムの導入などを奨励している。このほか、農業用トラクターおよび収穫機などの近代化プログラム(Moderfrota、同75億レアル)、倉庫建設・拡張プログラ

ム(PCA、同41億リアル)などが盛り込まれている。

② 飼料穀物の需給動向

2021/22年度(10月～翌9月)のトウモロコシ生産量は、1億1313万トン(前年度比29.9%増)と前年度を大幅に上回り、19/20年度の記録を更新し過去最高となった。(表7)。

これは、堅調な国際価格を反映して作付面積が前年度より増加するとともに、前年度に主産地で発生した干ばつなどによる単収の落ち込みから大幅に回復し、生産量が大幅に増加したためである。

一方、トウモロコシ輸出量は4663万トン(同124.0%増)と前年度2倍以上に増加した。さらに国内消費は745万3500トン(同4.7%増)と前年度をやや上回った結果、当該年度の期末在庫は809万6000トン(同40.1%減)と大幅に減少し低水準となった。

表7 トウモロコシ需給の推移

(単位:千トン)

区分	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22
期首在庫	15,739	14,559	13,187	15,312	13,515
生産量	80,710	100,043	102,586	87,097	113,130
輸入量	901	1,596	1,453	3,091	2,615
消費量	59,048	61,937	67,021	71,169	74,535
輸出量	23,742	41,074	34,893	20,816	46,630
期末在庫	14,559	13,187	15,312	13,515	8,096

資料:CONAB

2021/22年度(10月～翌9月)の大豆の生産量は1億2555万トン(同9.9%減)と前年度をかなりの程度下回った。これは、堅調な国際価格を反映して作付面積が増加したものの、主産地の南部3州および中西部の一部の州で、21年11月から年明けにかけてラニーニャ現象の影響により深刻な水不足に陥り単収が大幅に低下したためである。

ブラジルにとって主要な輸出品目である大豆の輸出量は、生産量が減少したことから7873万トン(同8.6%減)と前年度をかなりの程度下回った。

表8 大豆需給の推移

(単位:千トン)

区分	2020/21	2021/22
期首在庫	4,221	8,822
生産量	139,385	125,550
輸入量	864	419
種子/その他	3,575	3,561
輸出量	86,110	78,730
加工量	45,963	47,761
期末在庫	8,822	4,740

資料:CONAB

③ 飼料穀物の価格動向

トウモロコシと大豆の生産者販売価格は、20年後半から21年前半にかけてともに急騰している。

2021年のトウモロコシ生産者販売価格(サンパウロ州)は、国内外から堅調な需要を反映して、60キログラム当たり87.7リアル(前年比66.1%高)と大幅に上昇した(表9)。

また、同年の大豆生産者価格についても、トウモロコシと同様に国内外からの堅調な需要により同158.3リアル(同47.1%高)と大幅に上昇した(表10)。

表9 トウモロコシ生産者価格の推移(サンパウロ州)

(単位:リアル/60kg)

区分	2016	2017	2018	2019	2020	2021
生産者販売価格	36.8	26.4	34.0	35.0	52.8	87.7

資料:CONAB

表10 大豆生産者価格の推移(サンパウロ州)

(単位:リアル/60kg)

区分	2016	2017	2018	2019	2020	2021
生産者販売価格	72.8	62.9	72.6	72.1	107.6	158.3

資料:CONAB